

# 札幌市の小学校でJACOT認定講師が出前授業

今回の「コオトレNews」では、2024年4月に札幌市の3つの小学校(札幌市立藤野南小学校、札幌市立伏見小学校、札幌市立栄小学校)で行われた出前授業について紹介します。JACOT副理事長・認定講師の菅野映とJACOT理事・認定講師の熊耳雅美(北海道スポーツ協会)が、コーディネーショントレーニングの出前授業を行いました。札幌市学校体育研究連盟主催の「学ぶ会」に参加され、美唄市教育委員会と美唄市立中央小学校で開催したセミナーを受講し、普及員ライセンスを取得された3人の先生に当日の子どもたちの様子を伺いました。



脳と神経を刺激するコーディネーションのねらいを説明



みんなで一緒に「ラディアン」手足の連動を高める運動



札幌市立藤野南小学校の様子



札幌市立伏見小学校の様子



札幌市立栄小学校の様子

## 札幌市立藤野南小学校 教諭 濱田 風太 先生（2024年3月にJACOT認定普及員ライセンスを取得）

JACOT認定講師の出前授業では、2年生および特別支援学級の70名とミニ児童会館の20名に指導いただきました。運動が得意な子どもも苦手な子どもも、たくさん汗をかき、夢中になって取り組んでいるのが印象的でした。運動量が多く、どの子どもも運動の完成度よりも自分で考えて動いたことを大事にしながら取り組んでいました。「くの字運動」では、運動が苦手な子どもがお手本になり、活躍することができていました。さらに、ペアでのフープタッチでは、記録を更新してハイタッチをして喜ぶ姿がたくさん見られました。このように、どの子どもも安心して取り組み、繰り返し取り組んだり、個人での運動からペアやグループへと楽しさを広げることができたりするのもコーディネーショントレーニングの魅力だと感じています。

理論に基づいて指導が進められており、運動技能を高めるだけでなく、運動学習能力を高めることのできるコーディネーショントレーニングは、誰でも楽しく指導できるので、今後、幼保小で普及させていきたいと考えています。そして、自分自身でも児童の実態に合わせて内容を組み替えたり、球技の指導に定位分化能力系トレーニングを組み込んだりプログラムを改善・修正しながら指導の経験を蓄積し、運動をすることが好きな子どもの増加や、子どもの健やかな体づくりにつなげていきたいと考えています。



## 札幌市立伏見小学校 教諭 鷹合 有裕美 先生（2024年3月にJACOT認定普及員ライセンスを取得）

今回、5年生116名の子どもたちにJACOT認定講師が指導している出前授業を見てまず驚いたのは、笑顔でコーディネーショントレーニングを楽しむ姿でした。「協力立ち」では、男女関係なく声を掛け合い、立てた時には自然とハイタッチをして喜び合う子どもたちの姿が一番印象的でした。最初は照れながら行っていた「くの字運動」や「Sの字運動」も気付けば夢中に取り組んでいました。特に「ラディアン」は、今でも休み時間に「先生！ラディアンやりたい！曲かけて！」と声があがるほどお気に入りのようです。終わった後の子どもたちの感想の中にも「家でもやりたい。」「楽しくてあっという間だった。」という子が多く、保護者からも後日、「とても楽しかったようで、家で教えてくれました。」など声を掛けていただきました。コーディネーショントレーニングの良さは、前にも述べたように男女関係なく関わることだと思います。

後日、教室でにこまるボールのトレーニングを紹介すると気付けば、「みんなでやろうよ。」とクラスの子たちが集まっていました。場や年齢に応じた様々な活動があること、運動が不得意に関係なく誰もが楽しめることが魅力だと感じました。今後は、コーディネーショントレーニングを通して子どもたちが運動を楽しむのはもちろん、その効果を実感できるよう私自身が学び、学校現場に還元できるようにしていきたいと思っています。今回は貴重な経験をありがとうございました。



## 札幌市立栄小学校 教諭 井上 貴臣 先生（2024年3月にJACOT認定普及員ライセンスを取得）

特別支援学級の17名の子どもたちに対して、3月に熊耳先生に出前授業をして頂いたこともあり、4月に菅野先生を目の前にして、「今回はどんな運動をするんだろう？」と、子どもたちは、ワクワクした前向きな気持ちで臨みました。「くの字運動」「Sの字運動」「ラディアン」「高い鬼ごっこ」「ぐるぐる鬼ごっこ」など、汗だくになるまで頭と心と体を動かした45分でした。授業後の子どもたちの感想発表では、「また来てほしいです。」「他の学年の人たちにも教えてあげてほしいです。」などの声が上がりました。実際に活動している様子を見ても、コーディネーショントレーニングの一つ一つの活動に魅了されていることがうかがえました。また、とても印象的だったのは、高い鬼ごっこで、大人が追いかける姿を怖がって泣いてしまった子がいました。それでも、初回だけ休んだ後、友達や先生に励まされながら2回目にはチャレンジしました。そして最後には挙手して、「楽しかったです。」と感想を述べたことがとても驚きでもありました。その子は普段、大勢の前や馴染みのない人の前では緊張して言葉を発しづらい子だったからです。それこそがコーディネーショントレーニングに魅せられていく子どもの反応だと感じました。

コーディネーショントレーニングは、できるできないに関係なく、個々の主体性に委ねた楽しく学べる活動であり、そこが彼らにはぴったりなものといえます。また、運動機能はもとより認知面や学習面を伸ばすことにつながり、人としての社会的な適応能力を育むということは、将来的な自立と社会参加を目標とする支援学級の子たちには正にうってつけの素材です。

これからは、私が研究してきている体育学習に、コーディネーショントレーニングのエッセンスを新たに組み入れながら、本学級の児童の成長の推移を見ていきます。また、それをモデルとして本校教職員への周知することや、(公財)北海道スポーツ協会が4月に開催した放課後教室「JACOTコーディネーション道場in札幌」の活動にも参加し、札幌市内の普及員さんとの情報・実践交流に携わってまいります。



「学ぶ会(半日)」①7月6日(土)13時～16時 ②9月14日(土)13時～16時 札幌・中島体育センター  
「JACOT認定普及員ライセンスセミナー(1日)」③11月24日(日)9時半～16時半 札幌・北海きたえーる

